

交野市教委ニュース

第53号 (平成29年1月24日発行)

ビブリオバトル (知的書評合戦) をしました

ビブリオバトルは、平成19年京都大学情報学研究科の研究室で始まりました。進め方は、「①発表者がそれぞれ読んで面白いと思った (テーマに沿った) 本を持参②一人ずつ5分間で本を紹介する③それぞれ発表した後、参加者全員がその発表に関してディスカッションを2~3分行う④全ての発表が終了した後に『どの本が一番読みたくなったか?』を基準とした投票を参加者全員で行ない、最多票を集めた本を『チャンプ本』とする」というものです。

倉治小学校の5年生の学級では、まだまだ暑い9月の初めから「1月にビブリオバトルをする」ということを目的に2学期ほぼ毎週「図書の日」に取り組みを進めました。そして、1月20日(金)の6限目にビブリオバトル本番を迎えました。

まず、クラス6名の代表が前に出て自分の選んだ本を一生懸命に紹介しました。緊張しながらも精一杯考えた紹介を発表していました。聞いている児童も真剣に話に聞き入っていました。

それぞれの発表の後には、クラスメートから興味があった本の内容についての質問を受け、それにも上手に答えていました。



いざ投票! チャンプ本 (読みたくなった本) に投票した結果、「セカイヲカエル」(著: 嘉成晴香) と「言葉屋」(著: 久米絵美里) が同点1位で「チャンプ本」に選ばれました。

児童の感想

- ・一人ひとりの個性が出ていておもしろかった。他にもおもしろそうな本がたくさんあったので、読みたいと思う本が増えた。緊張したけれど楽しかったので、またやりたいと思った。
- ・はじめから、ずっと紹介したいと思っていました。紹介したら楽しかった。やっぱり、人に紹介することは、「楽しいんだなあ」と思った。
- ・ビブリオバトルをして、やりたくなかったけれど、やってみるとみんな違う本で、知らない本がまだまだたくさんあるんだなあと思い、みんなの本が読んでみたくなりました。

倉治小学校では、今月末にも、図書館アドバイザーを活用した6年生の授業が、図書教育推進研修として小・中学校の教員等に公開されます。

また、ビブリオバトルは、2月に郡津小学校6年生でも図書教育推進研修を兼ねて公開授業をします。星田小学校でも、図書委員会を中心とした、ビブリオバトルへの取り組みがあります。子どもたちの本に対する興味が高まるとともに、読解力や発表する能力を高める取り組みは、市内各小・中学校で行われています。